



詩篇の思想と信仰 VI

12月20日発売

第126篇から第150篇まで 『福音と世界』で好評を博した連載

月本昭男 著 (つきもと・あきお氏は立教大学名誉教授、上智大学教授、古代オリエント博物館館長)

詳細な語釈を踏まえ、各詩の形式と構造を明らかにした上で、その思想と信仰を解明する。古代オリエント学に通暁する著者ならではの周辺宗教思想への広い目配りを交えながら、ヤハウエ信仰の多様な表情と特質を浮き彫りにする。今日望みうる最高の著者による最高の注解。全6巻となる未曾有の詩篇注解も完結間近となった。

◆四六判・328頁・本体3400円

詩篇の思想と信仰 I 第1篇から第25篇まで ◆364頁・本体3200円

詩篇の思想と信仰 II 第26篇から第50篇まで ◆327頁・本体3200円

詩篇の思想と信仰 III 第51篇から第75篇まで ◆344頁・本体3000円

詩篇の思想と信仰 IV 第76篇から第100篇まで ◆380頁・本体3200円

シリーズ既刊

◆詩篇を読むために

詩篇研究 左近淑著 〈新教セミナーブック〉

◆426頁・本体3800円

詩篇の中から、特に愛唱される20篇を選び、厳密な批評的釈義と建德的な解釈を加えた、定評ある詩篇研究。著作集に未収録の代表的著作。

詩篇を考える C・S・ルイス著／西村徹訳

◆200頁・本体2000円

詩篇を信仰の書と同時にユダヤ教文学の精華としても楽しみ、その魅力をくつろいだ筆致で縦横に語る。ユダヤ系の妻ジョイを得た喜びが反映。



12月20日発売

没後50年記念

ペーター・ライヘンバッハ監督

カール・バルトの 愛と神学

DVD 1枚 (59分)、A6判 24頁ブックレット付き

◆本体 3700円

その秘められた愛と戦い

20世紀最大の神学者カール・バルト（1886-1968）の生涯を、本人の証言や関係者のインタビューを交えて辿る。

とりわけ、長年バルトの助手を務めたシャルロッテ・フォン・キルシュバウムとの恋愛を正面から取り上げ、神学と実人生との関係を考察するくだりは圧巻である。インタビューに登場するのは最晩年の助手ブッシュをはじめ、バルトとキルシュバウムの関係を論じた著書のあるスーザン・セリンジャー、また孫たちなど、実に興味尽きない。

ブックレットでは、気鋭のバルト研究者である福嶋揚氏のエッセイの他、『教会教義学』創造論の倫理から結婚論を抜粋。また主要登場人物紹介を付す。

●クリスマスと新年のために



渡辺禎雄版画カレンダー

2019年版は「よき羊飼い」（1982年作）。地色の青がさわやかな作品です。小羊を抱き上げる羊飼いの安堵の表情が印象的。◆本体 500円

もうひとりのはかせ

「アルタバン物語」として知られ、クリスマス劇の定番でもある傑作が、ついに描き下ろしの絵本に。幼児向け絵ひらがな。◆本体 1400円



関口安義著

評伝 矢内原忠雄

新渡戸・内村の薫陶を受け、伝道を志しつつ、経済学者として優れた業績を上げ、軍国日本と対決して野に退き、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者の生涯を、綿密な調査を基に描きあげた1100枚の大作。

◆A5判・予価8000円

宮平望著

デイズニーランド研究

世俗化された
天国への巡礼

東京デイズニーランドとデイズニーシーの年間入場者数は史上最高の1551万人を突破した。開園から35年を経てなお衰えぬ人気の秘密は何か。米本国のみならず世界の大衆文化に絶大な影響を与え続けるデイズニーワールドへの神学的アプローチ。

◆A5判・予価3000円

滝沢克己協会編

今を生きとる滝沢克己

生誕110周年を記念し、16名の論者が多様な観点から滝沢思想のアクチュアリティに迫る。

◆四六判・本体3200円

大野恵正著

旧約聖書入門3

現代に語りかける
出エジプトと契約

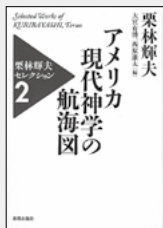
聖書を分かりやすく、かつ格調高く語ることに定評ある著者が、研究者教師、そして牧師として旧約聖書から受け取ってきた豊かなメッセージの核心を、現代人に取り次ぐ。

◆B6変判・本体予価2000円

● 11月に出版の本と雑誌

アメリカ現代神学の航海図

栗林輝夫著 栗林輝夫セレクション2



多様な潮流が絡まり合ってダイナミックな活力に溢れるアメリカ現代神学を、鋭利な視点から分析し応答する。日本で神学するための道具として！ 実践に固執した栗林神学がここにある。

◆A5判・本体4900円

〔重版〕

主のよき力に守られて

村椿嘉信訳 ボンヘツファー一日一章

その全著作から、御言葉への深い洞察に基づく慰めと希望に溢れた言葉を精選して365日に配列。一日一日を恵みの喜びに生きる力を与える。

◆A5判・本体5000円

福音と世界

◆税込635円

12月号 カール・バルトと現代——没後50年に寄せて

寄稿者：宮田光雄、福岡揚、阿久戸義愛、細見和之、猪刈由紀、絹川久子／片岡平和、石井光太、工藤律子、山口政隆、ブレイディみかこ、森宣雄、芦名定道、内田樹、辻学、望月麻生、佐藤優

●選挙や裁判といった「公的」な場で、自分が支持する側が勝利するよるこびを味わったことが、およそほとんどありません。先日、住んでいる地域の区長選がありました。わたしが投票した候補者は半数以上の得票差をつけられて破れました。これでもた、繁華街の客引き対策やら都市の防災機能強化やら、望んでもいないジェントリフィケーションに付き合わされねばなりません。まして、この区に多く暮らす外国籍住民にいたっては選挙プロセスからそもそも排除されているわけですから、たまたまのものではないでしょう。不可視委員会という匿名の思想集団がいますが、かれらは統治する者とされる者との意思が一致する(かのように表象する)統治の究極系として民主主義をとらえています。「民主的な」手続きをへたという一点で、統治は正統化されるのです。いつけん極端なかれらの主張が、じつは正鵠を得たものであることを、つくづく思いしらされます。

二審判決が先日くだされ、原告の彫師が勝訴したのです。タトゥーを彫ることに医療行為とは性質が異なるというしごくまっとうな判決に、思わずガッツポーズをしてみました。こういうよろこびを、もつと味わいたいものです。(堀)

●昨夏スイス宗教改革の跡をたどる旅をしました。バルトのお孫さんの家に泊めてもらったとき、談たまたま「今年できたDVDを見るか」と問われ「もちろん!」と答えて見せてもらったのが、間もなく発売される『カール・バルトの愛と神学』です。バルトの不屈の生涯を的確にまとめているだけでなく、助手フォン・キルシュバウムとの愛情関係を正面から取り上げていたことに息を呑みました。以前からそのことが囁かれていたのは承知していましたが、バルトの偉大な業績の前にはあえて触れる必要もないというのが一般的空気ではなかったでしょうか。このDVDは、そうした不文律を破ってバルトの実人生のもう一つの側面に、真面目な姿勢で光を当てています。バルトの結婚論を抄録した冊子も付けましたので、ぜひご覧ください。(小林)

福音と世界

2019年
1

特集・生きるためのフェミニズム

ポストフェミニズムとネオリベリズム

——フェミニズムは終わったのか——菊地夏野
ほどほどに女性が生きていくために——栗田隆子
生き残るための神学——批判的フェミニスト
神学の聖書解釈について——渡邊さゆり

共に在るためのフェミニズム——クエアとの
つながりに目を向けて——飯野由里子
セックスワークを通して考える当事者論

——個人的なことは政治的なことかつ
個人的なこと——要友紀子
《インタビュー》リベラルなモスクを建てた
女性弁護士——セイン・アマノ

【新連載】

◆福音書記者たちの饗宴……………松本あずさ
◆遺跡が語る聖書の世界……………長谷川修一
【好評連載から】

◆わたしはロックがわからない 4……………山口政隆
◆野に咲く民衆の神学 10……………森 宣雄
◆福音の地下水脈 15……………石井光太
◆現代神学の冒険 28……………芦名定道
◆レヴィナスの時間論 44……………内田 樹

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8460円